

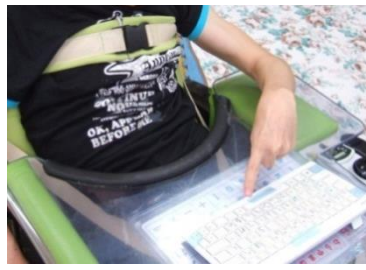


◆電子メールが送れるように練習しよう

<p><b>1 対象児童生徒（対象学級）の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等部 肢体不自由・知的障害</li> <li>・両足麻痺、右手は動作困難、左手指先で指示をしたりつかんだりすることができるが、書写や工作をするなどの器用な動作は困難である。</li> <li>・学力的には小学校2～3年程度と思われる。</li> <li>・文字盤を活用した会話や学習が十分に可能である。</li> </ul>		
<p><b>2 指導目標</b></p> <p>①自分の思いを文字で発信する。          ②自分の思いを単語に終わらずに文章で相手に伝える。          ③自宅等で余暇の過ごし方の一つとして、自分自身で電子メールでのやり取りができることにより、広がり・つながりがもてるようになる。</p>		
<p><b>3 取組の中心となる教科・領域等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動（「コミュニケーション」）</li> </ul>		
<p><b>4 使用したアプリ、周辺機器</b></p>		
 <p>テレビ+ i P a d +キーボード (本人)</p>	 <p>車椅子に乗車して入力を行う</p>	 <p>左手人差し指で入力を行う</p>
<p>i P a d 本体、Bluetooth キーボード          使用アプリ：Pages、他</p>		
<p><b>5 指導の経過及び児童生徒の変容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の時には i P a d に触れること、知ること、慣れることを目的に導入していた。</li> <li>・興味はあることがわかったが、i P a d の平面の入力画面では誤入力が多かったので、実際の学習の際に意欲をなくすことが多かった。</li> <li>・2学期になり、本人の指先で「押す」感覚で入力できるようなキーボードを用いて実施してみた。</li> <li>・キーボード操作に少しずつ慣れ、誤入力の際の修正を手伝いながら、自分の名前、家族の名前、あいさつのことば、好きな先生の名前など、自分で思った言葉を次々と入力していった。</li> <li>・文字入力をする際、一度入力した言葉が平仮名一字を入力すると候補に出てきたり、修正キーや、決定キー、矢印移動キーの各キーの働きなど、各種の動作についても理解してきている。</li> <li>・あいさつの言葉が入力できるので、「電子メールが打てるといいね」と話すと、意欲的であった。</li> <li>・3学期になり、i P a d の本体の平面の入力キーで操作を行おうとしたが、左手の指先がタッチする前に左手の握った別の指が入力キーに触れてしまうことがたびたびあった。i P a d の本体の向き（角度）を変えながら入力操作を試みたが、難しかった。</li> <li>・誤入力の訂正を行いながら文字入力を行うこと自体には興味をもって取り組んでいる。</li> </ul>		
<p><b>6 指導のポイント（変容の要因、効果的な支援方法等）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を表現する方法を身に付けるという視点で指導する。</li> <li>・手軽な文字入力操作のできる機器として本人が意欲的に利用できるような機器やソフトを検討し、目標達成に臨みたい。</li> </ul>		